

幸せへの道

ハリリー・パルマー

以下の文章は、米国フロリダ州オーランドで行われた1995年ウィザード・コースでのハリリー・パルマーの講義を編集したものです。

皆さんは幸せになりたいですか？

この目標について考えてみてください。「私は幸せになりたい」という目標です。これは、多くの人々が共有している共通の目標です。

私が皆さんにお聞きしたい質問は、それはなぜなのか、という点です。なぜ、あなたは幸せになりたいのですか？

論理的に考えてみましょう。キャンディーを売っている店の前を歩いていて、突然、その店の中に入って行ってキャンディーを買いたいという欲求を持ったとします。それはなぜでしょう？

それは、あなたがキャンディーはおいしいということを知っているからです。

あなたは以前にそれを食べたことがあり、キャンディーはどんな味がするかを知っているからです。

では、今度は「私は幸せになりたい」というのに戻りましょう。なぜ幸せになりたいのですか？ それがいい感じがするからです。そして、あなたがそれがいい感じがするということを知っているのは、以前、それを感じたことがあるからです。

だとしたら、なぜそこから離れたのでしょうか？

おそらくあなたは、こんなふうに答えるでしょう。「ええと、私はいくつか決断を誤ったことがある。やるべきでなかったことを、いくつかやってしまったし、とるべきでない行動をとってしまった。だから、今、こうなっているんだ」と。

講演け知宇宙必的悟け時必当受ラ入演悟何静心

めー故受郷帰受領異邦受ピチュウ教子宙師役

.....宇宙知割夢け実郷一宇宙知つの別見一的役

さて、自分の手の中に全世界を納めて、それを眺めている<聖なる自己>としてのあなたを、この瞬間、思い浮かべてごらん下さい。「大丈夫。本当にすべては大丈夫なんだ」と、思ってごらん下さい。そのとき、あなたは幸せです。これが自然な状態です。あなたはこの世の中の外にいて、世の中はすべてうまくいっていて、あなたは幸せです。世の中がうまくいっていないとき、あなたは幸せでないのです。

その後、世の中に何かが起こったとします。あなたはその世界の中に入って、何が起きているのかを見

に行きます。「どうすれば、私はこれをうまく正せるだろうか？」と思いながら。

「私は」といいましたか？

でも、もうさっきと同じ「私」ではありません。

「幸せな私」ではありません。もはや、それは疑問を感じている「私」となっています。私たちにすべての創造を「私」という立場から経験させることによって、神は私たちを混乱させようとしたのだと思いますか？

あなたは、この世の中に「私」として入っていきます。あなたは自分自身を定義し始めます。「私は白人の男性だ。アメリカ人だ。髪の色はブロンド。大卒。犬の飼育をしていて、運転している車はコルベットだ」という具合に。限定がどんどん増えていきます。この限定が増えれば増えるほど、あなたはどんどん深くこの世の中に沈んでいきます。

ある日、あなたは「幸せになりたい」と言う日が来ます。ある意味では、それは「完全になりたい」といっているのと同じことなのですが、普通は私たちはそれを理解していないので、「私は幸せになりたい」と言うのです。

信頼することが幸せになることの一部であることを、あなたはどこかで学んだのを覚えているような気がします。そこで、信頼を持ち始めます。すると、最初に目に付くのは雑誌の広告で、「成功しましょう、幸せになりましょう！ ロールスロイスを運転しましょう！」と宣伝しています。

「幸せになること。」それがあなたの求めていたものでしたね。あなたは信頼しようとしています。それもあなたの求めていたことでした。

そうか、ロールスロイスか、それが秘訣だったのだ。そうしてあなたは、それをしっかりと心に留めます。あなたは、ロールスロイスを持っていないことを「不幸せ」として定義することになります。そして「私は本当にロールスロイスが必要だ！ 私は幸せになるためにはロールスロイスが必要だ」ということを創造し始めます。あなたは何年間か - かなりの年数を - 苦勞して働き、その間ずっと、自分自身を「ロールスロイスがないから不幸せ」と定義し、「ロールスロイスを買うことができたとき、私は幸せになる」と考え続けるわけです。

そしてとうとう、あなたはロールスロイスのディーラーへ行けるだけのお金を貯めることができました。またしても、あなたはスピリチュアルなやり方を貫きます。つまりセールスマンを信頼します。お金を渡して、あなたのロールスロイスに乗り込みます。それは至福の瞬間です。「そうか、これが幸せになるって

うことなのだな。」ショールームから車を運転して外に出ると、直ぐに、あなたのロールスロイスをめちゃめちゃに傷つけてしまえるような他の車がたくさん路上を走っているのに気がつきます。あなたは自分の車を保護したくなります。ガレージがあれば、それがあなたを幸せにできることでしょうか。ああ、それからガレージを見張る番人が欲しい。それからついでに、最初の番人を見張るためのもう一人の番人がいればいい。どういうわけか、幸せになるためにこんなに努力が必要だったようには思えないと、あなたは感じてしまいます。

心配し始めます。あなたの幸せに何が起こってしまったのでしょうか？ まず物を集めて、その後、あなたはそれを保護します。集めることと保護することは、表裏一体です。保護しているときは、あなたは幸せではありません。もしかして、あなたは悪い忠告に従ったのかもしれない。もしかして、あなたは幸せを求める場所を間違ったのかもしれない。

この世の中であなたを幸せにすることができるのものは何だか知っていますか？

実は何もありません。あなたを幸せにするためには、いかなる「物」の追求、所有、保護も、うまくいきません。あなたはそれを得るまでは不幸せで、その後、それを得た後は、それを失うかもしれないと考えるとき不幸せです。あなたはそれでも本当に幸せになりたいのですか？ いっそのこと、ただお金持ちで有名になることぐらいで我慢したほうがいいのではないのでしょうか？

あなたが何を考えているか、わかりますよ。

「ええと、どっちにしても不幸せになるのなら、いっそのこと……。」いいえ、だめです。まず最初に幸せを求めてください。お金持ちであることは、あなたが幸せになった後でなら、耐えられることでしょうか、お金持ちであると同時に不幸せだったら、何という耐え難い苦しみとなることでしょうか。

幸せとは、心の平安を回復することを必要とします。心の平安がなければ幸せにはなれません。心の平安がなければ喜びはありません。もしもあなたが何らかの心の乱れや、心の平安の欠如を持っているなら、あなたは幸せにはなれません。執着は、あなたの心の平安を侵食してしまいます。期待は、あなたの心の平安を乱します。

あなたが何かが起こることを期待して、それが起こらなかったとします。そうするとあなたは、落胆を経験します。あなたは取り乱して、心の平安を失います。あなたは世の中の渦巻きに引き込まれてしまいます。ある人々は、その落胆のもとになった期待を創り

出したのは自分だったのだと気づく代わりに、自分の心の平安を乱した責任を他人になすり付けようとしません。「君は、僕が君に期待した通りのことをしてくれなかった。何という恥さらしだ」と。

十分に苦しんだ後 - ほとんどの場合、それは何回もの人生の後ですが - あなたはとうとう決心します、「たぶん、幸せを見つけるには、それを失った場所で探すことが必要なのだ」と。頭の中に電気がついたかのように！ 何とすばらしいアイデアでしょう！ 幸せを失った場所で幸せを探すということ。

そこで、あなたは限定を手放し始めます。「僕は、コルベットを運転する者ではない。犬の飼育をする者ではない。」これらはただの限定にすぎません。「僕はアメリカ人ではない。僕は白人の男性ではない。」これらは限定です。「僕は、幸せになるためにロールスロイスを必要としない。」期待の無い状態。あなたを幸せにするためには、何が起こる必要もないし、何かが起こらない必要もないのです。あなたは、世の中を見渡して、すべてはうまくいっていたときのあの観点に戻ります。

これがリサーフェシング（再浮上）です。小さな「私」の幸せの探求とは、実際には、<聖なる自己>のこの観点へ戻ることへの切望なのです。（これは興味深いことではありませんか？ マーケティングや広告が

期待の無い状態。あなたを幸せにするためには、何が起こる必要もないし、何かが起こらない必要もないのです。あなたは、世の中を見渡して、すべてはうまくいっていたときのあの観点に戻ります。これがリサーフェシング（再浮上）です。

効果があるのは、認識されていないスピリチュアルな切望に訴えかけているからだとということなのです。）

これはかなり伝統的なスピリチュアルな道の教えです。秘伝的伝統の中のみで伝えられてきた教えは、この段階よりももう一歩進みます。この教えによれば、もしも欲求と恐れを管理できるだけ十分な叡智と技術をもっていれば、この世の中に参加して、罨にはまったく不幸せになつたりすることなく、この世をよりよいものとして行くことができるのです。

まさに、それがアバターです。世の中に沈んでしまわないように自分自身を限定しすぎないようにすることから、あなたは始めることができます。